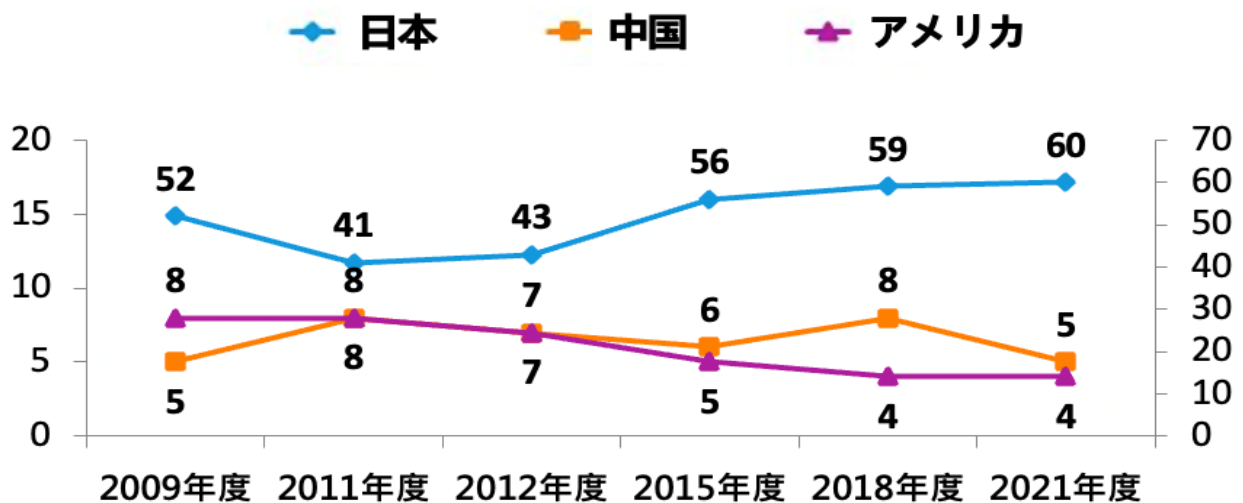


# 2021年度台湾における対日世論調査

(2022年1月) (概要版)

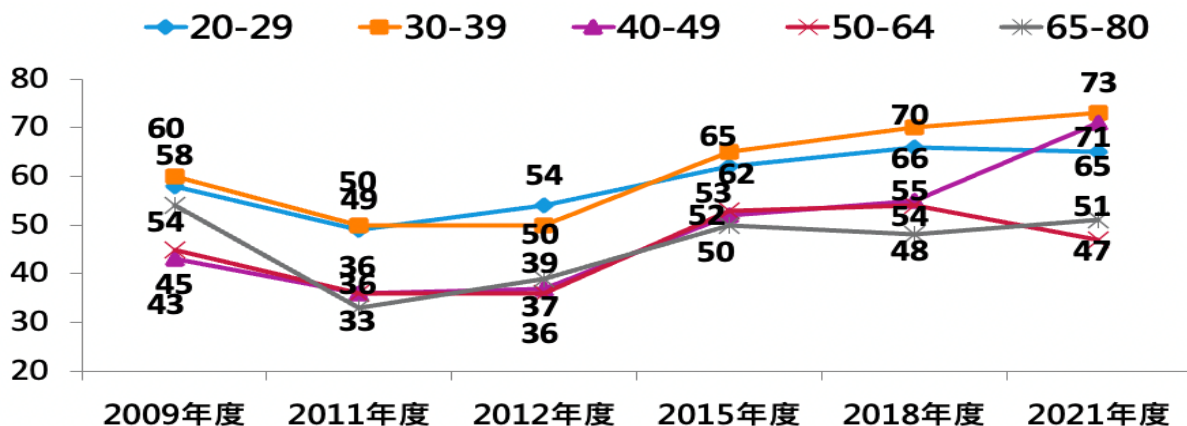
- 問1：台湾を除き、あなたの最も好きな国（地域）はどこですか。  
 歴年のいずれの調査においても、最も好きな国の第一位は日本となっている。中でも今年度は60%で過去最高となり、第二位の中国を大きく離れた。中国とアメリカの順位に変化はないが、差は縮まっている。

台湾を除き、最も好きな国上位三か国 | 2009～2021年度



年齢別で見ると、50-64歳では減少したものの、全体としては上昇傾向にある。50-64歳以外の年齢層は半数以上が日本が最も好きだと回答しており、うち30-39歳が最多。2018年度調査との比較では40-49歳の増加率が最も高く、16ポイント増加している。

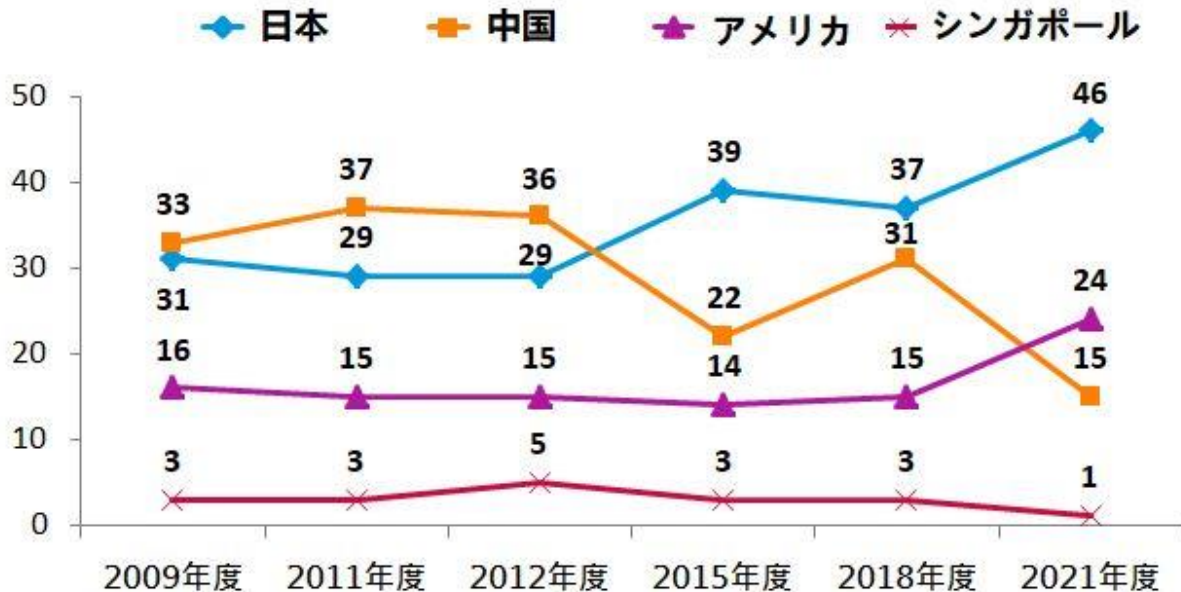
日本が最も好きな国であると回答した割合(年齢別比較) | 2009～2021年度



● 問2：今後台湾が最も親しくすべき国（地域）はどこですか。

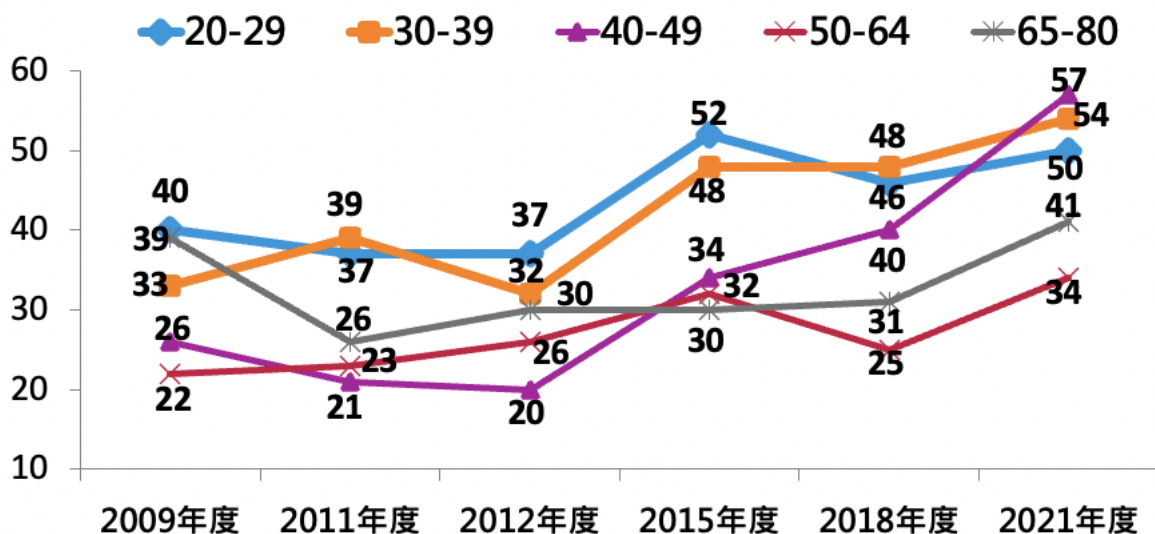
日本は46%で第一位を維持、これまでで最も高い割合となった。2018年度調査では第二位だった中国は前回の31%から15%に大きく減少、調査開始以降初めて第三位となり、歴年調査で毎回第三位だったアメリカは9ポイント増加し初めて第二位に浮上した。日本と中国の差は、前回の6ポイントから31ポイントに拡大した。

最も親しくすべき国 | 2009～2021年度



「最も親しくすべき国」として日本を挙げた割合は全年齢層において上昇しており、うち40-49歳の増加率が最も高く、2018年度から17ポイント増加。20-39歳の層を超え、最も高い割合となった。

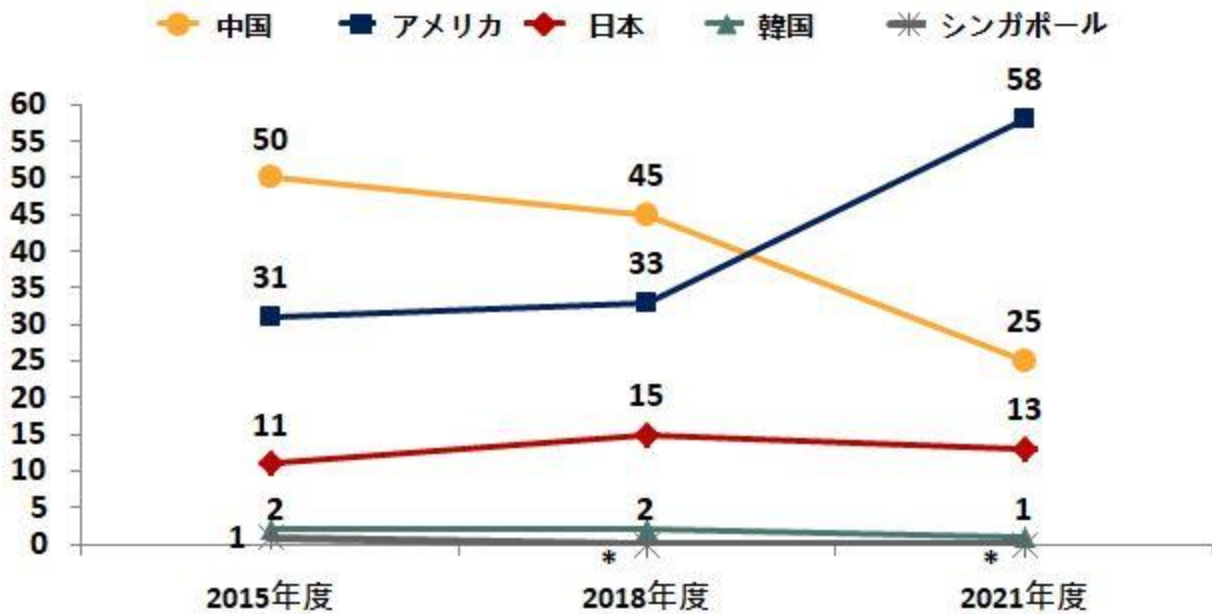
日本を最も親しくすべき国と回答した割合（年齢別比較） | 2009～2021年度



● 問3：台湾に最も影響を与えている国（地域）はどこですか。

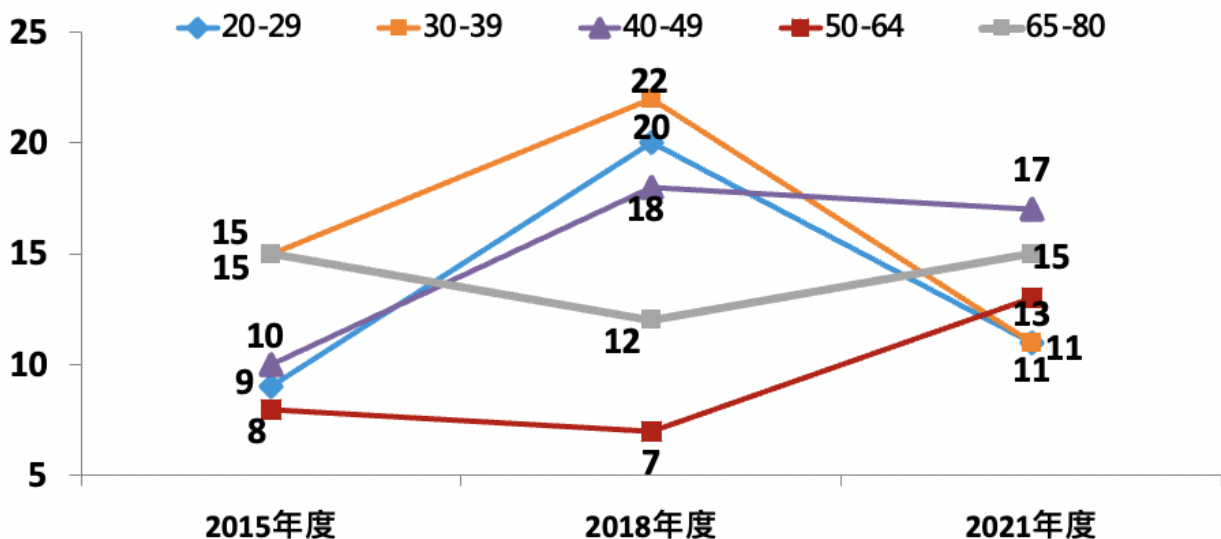
「最も好きな国」「最も親しくすべき国」ではいずれも日本が第一位であるが、「台湾に最も影響を与えている国」としては、毎回中国とアメリカの割合が高い。今年度はアメリカが中国を大きく逆転し、過去最も高い58%で初めて第一位となった。中国の割合は大きく減少、日本については大きな変化は見られない。

台湾人が考える台湾に最も影響を与え続けている国 上位五か国 | 2015～2021年度



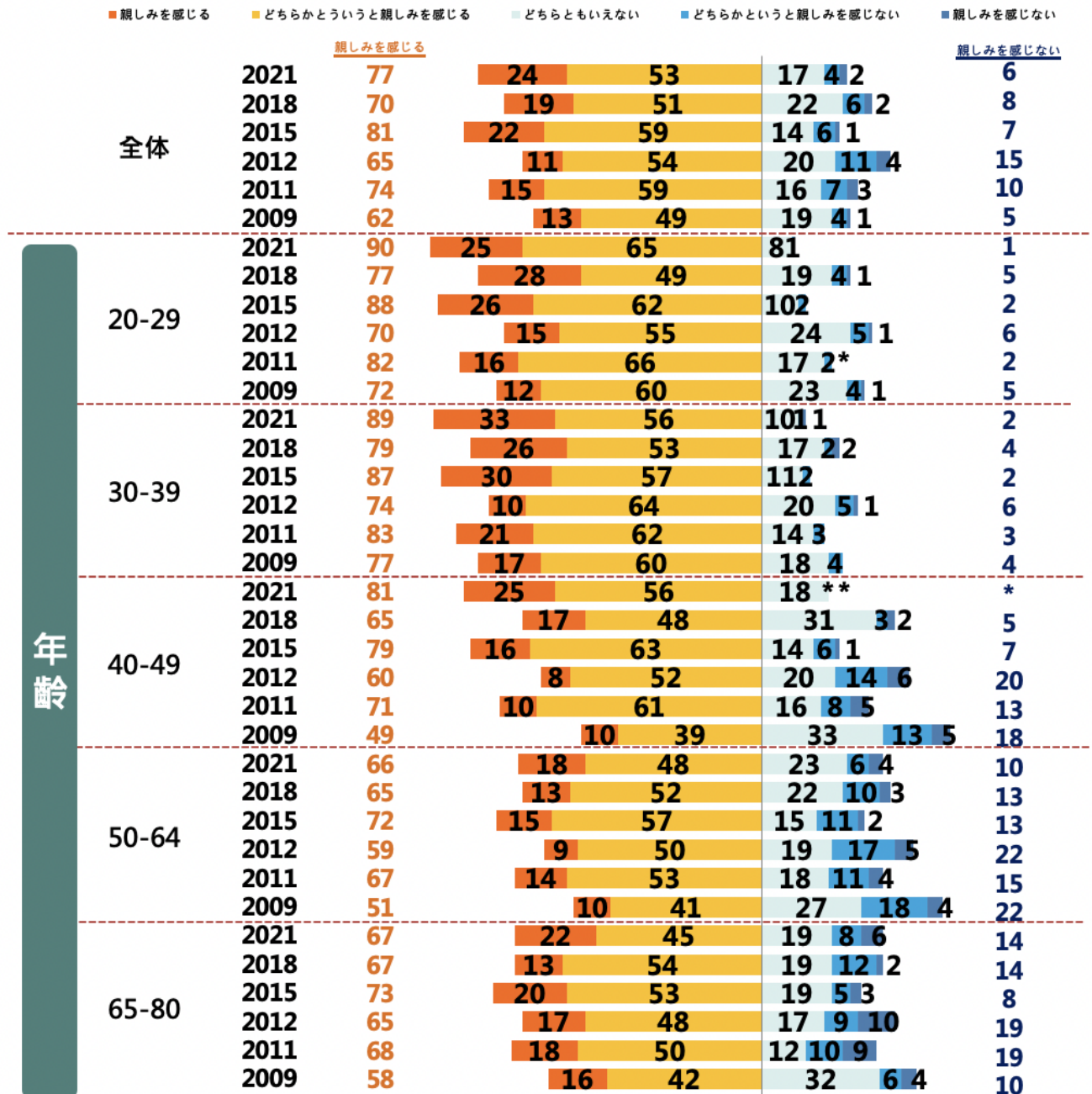
「台湾に最も影響を与えている国」として日本を挙げた層を年齢別で見ると、39歳以下では大きく減少している一方で、50歳以上は微増した。

日本が台湾に最も影響を与えていると回答した割合（年齢別比較） | 2015～2021年度



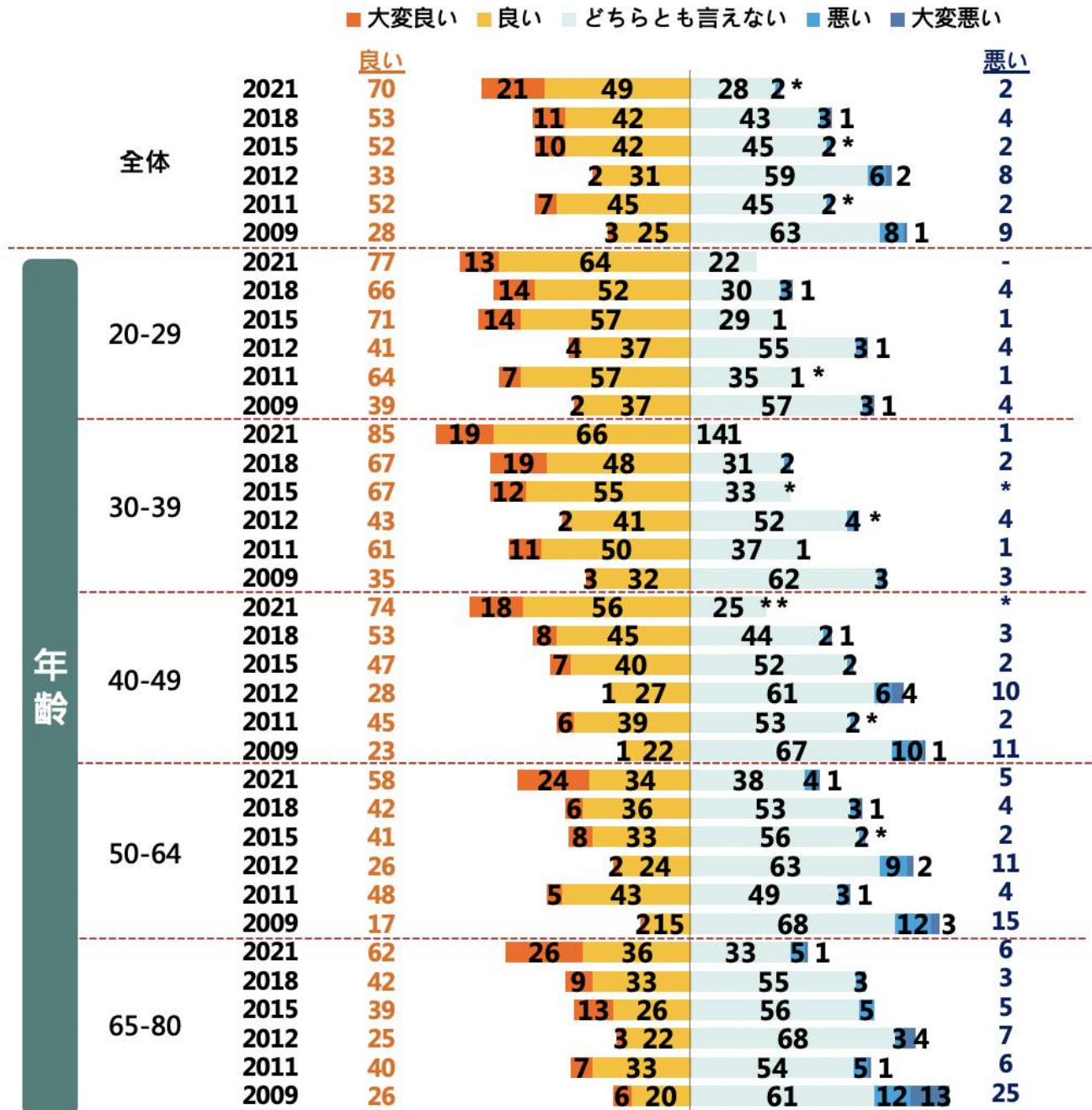
● 問4：日本に親しみを感じますか。

日本への親近感は、2015年度の81%が最も高く、2018年度は70%であったが、今年度は77%に再び上昇した。各年齢別の変化を見ると、20-49歳の対日好感度は過去最高を更新した。



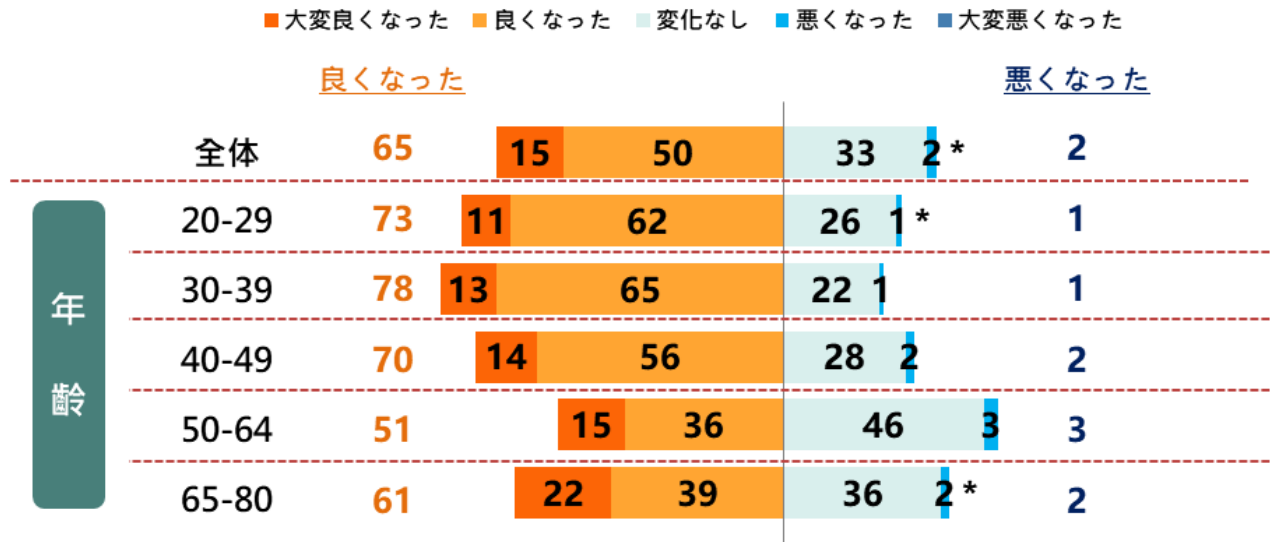
● 問13：現在の日台関係をどう思いますか。

日台関係は良好だと回答した割合は前回2018年度調査から大きく上昇、過去最高の七割に達した。良好との認識は全年齢層において増加しており、特に49歳以下の各年齢層ではいずれも七割を超えている。



● 問14：現在の日台関係は、以前と比べてどう変化していると思いますか。

65%が、日台関係は以前よりも良くなっていると回答しており、悪くなっているとの認識は僅か2%、33%が変化なしとの認識であった。年齢別で見ると、49歳以下は七割以上が日台関係の良好な変化を感じている。（本設問は2021年度初出）



● 問16：日本は信頼できる国と考えますか。

日本への信頼度は2018年度調査から大きく上昇し、60%が日本は信頼できる国だと回答、過去最高を更新した。信頼できないとの回答は8%で、33%がどちらとも言えないとしている。年齢別で見ると、日本への信頼度はいずれの年齢層でも上昇しており、30-39歳では初めて七割を超えた。

